

() は
保存温度

生化学的検査

	項目コード	項目名	採取容器	必用量	検査方法	基準値	区分 実施料	報告 日数	備考	外注先
蛋白	102 3A010	総蛋白 3A0100000023271	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	ビウレット法	6.7～8.3 g/dL	生化 I 11	1～2	*1	1
	104 3A015	アルブミン (BCP改良法) 3A0150000023271	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	BCP改良法	3.8～5.3 g/dL	生化 I 11	1～2	*1	1
	148 3A016	A/G比 3A0160000023271	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	計算法	1.3～2.0		1～2	総蛋白(項目コード102)/アルブミン(項目コード104)同時依頼にて自動追加します	1
	1767 3A015	尿アルブミン・クレアチニン比 (随時) 3A0150000001061	5 尿スピッツ	尿 1(冷蔵)	免疫比色 法・酵素法	CKD重症 分類参照	尿便 99	1～2	*2	1
	2260 3A015	尿アルブミン(蓄尿) 3A0150000004061	5 尿スピッツ	蓄尿 1(冷蔵)	免疫比色法	22.0以下 mg/day	尿便 99	1～2	蓄尿量、蓄尿時間を記入ください *2	1
	2060 1A015	蛋白定量(蓄尿) U-TP 1A0150000004271	5 尿スピッツ	尿 1(冷蔵)	ピロガールレ ッド法	0.02～0.12 g/day	尿便 7	1～2	蓄尿量、蓄尿時間を記入ください	1
	2598 1A015	尿蛋白/クレアチニン比 1A0150000001292	5 尿スピッツ	尿 1(冷蔵)	ピロガールレ ッド法・酵素法	0.15未満 g/g・cre	尿便・生 化 I 7+11	1～2		1
	800 3A020	蛋白分画 3A0200000023232	1 全血容器(茶)	血清 0.5(冷蔵)	キャピラリー・電 気泳動法	下記参照 %	生化 I 18	1～2	アブノーマルピークが疑われる場合はパターンも報告いたします *1	1

*¹ 蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを併せて実施した場合は主たるもの2項目のみ算定する

*² トランスフェリン(尿)・アルブミン(尿)・IV型コラーゲン(尿)糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3か月に1回に限り算定できる。なおこれらを行った場合は、主たるもののみ算定する。

○慢性腎臓病(CKD)の重症度分類

原疾患		尿蛋白成分		A 1	A 2	A 3
糖尿病性 腎臓病	尿アルブミン定量 (mg/日)		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿	
	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)		30未満	30～299	300以上	
高血圧性腎硬化 症・腎炎・多発性 嚢胞腎・移植腎・ 不明・その他	尿蛋白定量 (g/日)		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿	
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)		0.15未満	0.15～0.49	0.50以上	
GFR区 分 (ml/ 分 /1.73 mf)	G 1	正常または高値	≧90			
	G 2	正常または軽度低下	60～89			
	G 3 a	軽度～中等度低下	45～59			
	G 3 b	中等度～高度低下	30～44			
	G 4	高度低下	15～29			
	G 5	末期腎不全 (ESKD)				

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分に合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを■のステージを基準に、■黄色、■オレンジ、■赤の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する(エビデンスに基づいたCKDガイドライン2023より)

蛋白分画基準値(%)

アルブミン	55.8	～	66.1
α 1 グロブリン	2.9	～	4.9
α 2 グロブリン	7.1	～	11.8
β 1 グロブリン	4.7	～	7.2
β 1 グロブリン	3.2	～	6.5
γ グロブリン	11.1	～	18.8
A/G	1.3	～	1.9